



第二中学校だより

R6 ミッション 「期待の登校、満足の下校」

令和7年3月号

↓二中ホームページ↓



〇〇は、世界で一番過酷な仕事だと思います。

校長 小関 直

3月になりました。年度の締めくくりです。いつもこの時期になると、心が苦しくなります。別れの季節だからではありません。一年間の成果はどこにあったのか、疑問符ばかりが残るからです。大人になってからは、毎年反省を重ねるばかりで、なかなか自信にはつながりません。

だからこそ、教員になってからは、子供たちに悔いが残らないよう、一年間精一杯に取り組みました。ですから、年度末3月は、取り組みの成果を「成長」として確認する月でした。成長を確認するためには、まとめを丁寧に行う必要があります、実践も重ねてきました。教員なら誰でも行う行動パターンだと思います。

ところが、担任の意気込みとは裏腹に、子供たちはいつもと何ら変わらぬ様子で年度末3月を過ごし、卒業、進級していくのが常でした。担任がどう思っているか、なんてことはどこ吹く風で、「自分一人で大きくなった」と感じているように思えてなりません。「学習成果発表会」や「クラスの解散式」を設定し、活動を通して振り返らせたこともあります。やればやるほど、感謝の押し付け、感動の強要のように思えてなりません。性分に合っていないのだと思います。でも、「自分一人で大きくなった」と思わせてはいけない、そんな思いで、ある年からやり方を変えました。それは、3月の修了式や卒業式の1週間前に次のような問いを子供たちにすることでした。

問「世の中で一番大変な仕事」は何でしょう？

子供たちは口々に、大変そうな職業を挙げていきます。中には、「先生!」とうれしいことを言ってくれる子もいます。

(内心では「正解!」と叫んでいます、表情には出しません…)

ゆっくりとその仕事の説明を始めます。

「その仕事は、現場の総監督です。その責任は重く、責任の範囲は広範です。しかも、やらなければならない仕事は、刻々と変わり流動的です。ほとんどの時間を立って作業をしたり、しゃがんで作業をしたりします。とても体力を必要とします。

さらに、多くの人とコミュニケーションを図ったり、交渉したりしなければなりません。時には、医療的な判断をしたり、金銭的な管理もしなければなりません。場合によっては、一睡もせずに人の世話をすることだってあります。このようにプライベートの時間すら確保できず、休みなしで働く日が連続することだってあります。」

ここまで話すと、多くの子が「そんな仕事はない」と、怪訝な表情を浮かべます。さらに続けます。

「そんな仕事は嫌だ、と思うでしょ。でも、とてもやりがいがあるのです。だから、誰から頼まれたわけでもないのに、その仕事を一生続ける人がたくさんいるのです。しかもその仕事は、どんなに働いても、給料は『ゼロ』なのです。そんな仕事、あり得ますか?この仕事に就きたいと思う人は

いますか?さあ、いったいこの仕事は何なのでしょう?」

子供に気がついてほしくて、話す内容なのですが、ここまでお読みいただければ、察しがつくと思います。そうです。答えは、「親(お母さん、お父さん※順不同)」です。さらに続けます。

「一人で何もできなかった皆さんをここまで育ててくれたのは、まぎれもなく親です。この一年間を振り返ってみても、食べるものがなかった日、寝る布団がなかった日、雨風を防ぐ家がなかった日はなかったはず。どれもこれも必死で働いて皆さんを育ててくれた証です。ですから、自分一人で大きくなった、なんて思えてはいけません。」

この話をした日の宿題は、きまって“親に感謝の言葉を述べる”です。これは教育か?と問われれば、ちょっと違うのですが、人として子供たちに伝えたいことではあります。教師は職業ではなく生き方、というのが座右の銘だったりします。

昨年末、30代半ばの教え子の同窓会に呼ばれたとき、くだらない話題に交じって、この宿題のことが話題になりました。実は、今回の学校だよりの記事は、その時に、はっと思い出した内容です。その同窓会では、宿題の答え合わせで盛り上がりました。「いつもありがとう」が最もベタな言葉だったようです。その中から、最優秀に選ばれた答えが表題にある「**おや**は、世界で一番過酷な仕事だと思います。なるべく迷惑をかけないように頑張ります。」でした。突っ込みどころ満載で大爆笑でした。まず、「世の中で一番」が「世界で一番」に、「大変な仕事」が「過酷な仕事」に変換され、「なるべく」を付け加えて逃げ道を作るところが、“らしい”との評価につながったようです。最優秀となった元教え子(男性)曰く、「感謝の言葉を母親に言った後に、珍しく抱きしめられて少しうれしかったのを覚えている」とのことでした。“「自分一人で大きくなった」と思わせてはいけない」という思いで行った取り組みの成果が20年後に確認できてよかったなあ、と素直に思います。

3学期も残りわずかとなりました。1年間のまとめをしっかりとして、4月を迎えてほしいと思います。引き続きのご協力をお願いします。

日程の最終確認をお願いします!

先月もお伝えしたとおり、来年度の**体育祭**は、諸事情により11月29日(土)に行う予定です。混乱を避けるため**地域の恒例行事**が11月29日に組まれていないか、情報をお寄せいただいているところです。現在までにそうしたお声はありません。もし、日程の重なりがあるようでしたら、3/7(金)までにお知らせください。申し出がないようでしたら、予定通りの日程で体育祭を実施します。

いじめの認知件数(年間) ①学期32件、②学期61件、①月24件、②月9件 年間126件

※法令に照らし合わせたいじめの認知件数は、年度末を迎え減少傾向にあります。ただ、同じ生徒が繰り返し加害行動にでてしまうことが課題です。規範意識を醸成することは難しく、教員の指導だけでは効果が現れにくいこともあります。教員と生徒のOne-Wayの関係だけでなく、保護者や生徒同士が関わるTwo-Way、Three-Wayの関係を構築することも大切です。